

| 項目      | 経営目標                 | 本年度の重点            | 具体的な方策   | 職員評価 |     |      |    | 教員による分析結果  | 教員による改善策  | 学校運営連絡協議会委員による評価   |  | 学校の見解と今後の方向性  |   |                    |   |
|---------|----------------------|-------------------|--|------|-----|------|----|--|---|--------------------|--|---|---|--------------------|---|
|         |                      |                   |  | 上段取組 |     | 下段成果 |    |  |   | 評価                 | コメント   |   |   |                    |   |
|         |                      |                   |  | A    | B   | C    | D  |  |   |                    |  |   |   |                    |   |
| 力を付ける授業 | 分かる、楽しい、学びが深い授業がある学校 | 主体的な学びを推進し、学力を伸ばす | ①「豊かな学びの場、わかき」の視点「わくわく、かわわり、くふう、さいご」をもとに授業改善に取り組む。 | 58%  | 42% | 0%   | 0% | <ul style="list-style-type: none"> <li>○発問の工夫、教材提示の工夫などを意識して取り組んだ。</li> <li>○校内研を通して児童が主体的に取り組める環境を作ることができている。</li> <li>○感染症への対応による制限がなくなり、教育活動がより充実した。</li> <li>○実態に合わせてペア・グループ活動を取り入れて考えを引き出している</li> <li>○授業参観の際、子どもが意欲的になるような授業を行っていた。</li> <li>○考えを交流する時間を意図的に設定している。</li> <li>●意識しているものの児童の達成度がもう少し。</li> <li>●これならわかるだろうと思っても理解できない子がいる。</li> <li>●意識して授業改善に取り組んでいるが、引き出し切れていない。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員もわくわくしながら教えるなど、模範になる。</li> <li>・児童の考えを引き出すことがさらにできるようにわかる学びが深い授業づくりを行う。</li> <li>・「わくわく」を高められるよう教材研究、発問研究に務める。</li> <li>・基礎学力を高めるための担任としての添削や修正を最後まで行わせる。</li> <li>・授業準備をもっと広め指導する内容をもっとしぼる。</li> </ul> | A B C D<br>2 3 0 0 | <p>今年度は「自分に自信をもち、すすんで課題を解決する児童の育成」を目指し取り組み中で、個々の教員の授業改善を進めてきた。しかしまだまだ改善の過程であることが不可欠である。そこで今年度の研究を来年度も引継ぎ、更なる指導法の開発と児童の自己肯定感と自尊感情の向上を図っていく。またICT機器をより効果的に活用することにより、児童の学ぶ意欲を刺激し、児童が主体的に学ぶ授業の実現に向けて力を尽くす。</p> |   |   |                    |   |
|         |                      |                   |  | 29%  | 63% | 8%   | 0% |  |   |                    |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○どのクラスも落ち着いて学習に取り組んでいる。</li> <li>○その都度指導を行うことを学期初めの学習規律について確認をしていった。</li> <li>○学習規律を徹底した指導を行っていた。</li> <li>○入学時から指導されてきたことをくずさないよう指導を徹底した。</li> <li>○クラスのほとんどの児童が学習規律を身に付けることができた。</li> <li>○授業中落ち着いて取り組めていて、学習規律が身に付いている。</li> <li>○学びの約束を月初め等で確認し合う。</li> <li>●意識しているものの児童の達成度がもう少し。</li> <li>●自宅学習の定着が見受けられない。</li> <li>●意識しているが、徹底できていない。</li> <li>●一部児童については規律を守れないことがあった。</li> <li>●「若草小学の約束」を活用して継続した指導ができているが、一部守れない子もいる。</li> <li>●生活指導部から「学びの約束」が出されているが、全学年が同じ形に統一はされていないように感じる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習規律は徹底できていても、学習習慣は家庭の協力も必要だと思う。</li> <li>・アプローチの仕方を児童に合わせてものにする。</li> <li>・保護者も含めて自宅学習の定着化を図る。</li> <li>・規律が守れない児童への対応を教師間で連携して対応できるようにしていく。</li> <li>・徹底できるように系統的な指導を日ごろから意識して行う。</li> <li>・身に付かない児童がそれでも多数いるので、それまでの学級担任との引継ぎを行うなどして、指導を徹底していく。</li> <li>・覚えているようでも意外、忘れていることも多いので、定期的に行う必要あり。</li> <li>・校内研究で学習規律の統一をテーマにしても良いのでは。</li> </ul> | A B C D<br>2 4 0 0 | <p>「若草小学校の約束」は文字だけ読むと厳しい印象を持ちます。先生達同士で共通理解を持つことが大切かと思いました。</p> <p>・約束させ、守らせながらの指導は大切だと思います。</p> <p>・授業参観に参加して感じたことですが、外来者が同席しているからかもしれないが、教える先生が少々委縮しているように感じました。父兄がいようがいまいが、授業態度不良な子には、学校授業はこのようなのだと自信をもって、指導頂ければ感じました。</p> <p>・学習ルール、決まりは徹底されている。</p> <p>・特別教室に行くとき、きちんと整理して静かに行動している。教師がついていくクラスと子供だけで歩行しているクラスがある。</p> <p>・「学びの約束」はだいたいの子が守られている。次の学習に必要なものを机の上に出しておくは、あまり守られていない子もいる。シャーペンを使用している子もいる。</p> |
|         |                      |                   |  | 58%  | 29% | 13%  | 0% |  |   |                    |  |   |   |                    |   |

|       |                            |                                |  |     |     |    |     |   |  |                    |  |   |
|-------|----------------------------|--------------------------------|--|-----|-----|----|-----|---|--|--------------------|--|---|
| 豊かな体験 | 多様で豊かな直接体験の機会がある学校         | 多様な体験の機会を定め、児童の視野を広げ、学習意欲につなげる | ④ 豊かな直接体験の場として、ゲストティーチャーや地域人材を活用した授業を各学年で実施する。                 | 42% | 42% | 4% | 12% | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ゲストティーチャーなどによる授業は子どもたちの意欲を引き出し、とても有意義だった。</li> <li>○太鼓の先生に計画的に来てもらい、取組むことができた。</li> <li>○多様な学びができています。</li> <li>○昨年度以上に活用した授業を実施できた。</li> <li>○今年もゲストティーチャーを活用した授業が行われていた。</li> <li>○保護者とともに地域安全マップづくりをした。</li> <li>○司書の読み聞かせを毎週行っている。</li> <li>●学年としてゲストティーチャーや地域人材の活用はできなかった。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・大人の読み聞かせをまわって、児童が友達に読み聞かせを行っている姿は効果アップ。</li> <li>・青梅学等でゲストティーチャーを呼べると深まる。</li> <li>・どんな人材がいるのかを把握し、早めに計画を立てて取り組む。</li> <li>・地域人材の活用リストを作成し、地域をもっと使えるようにする。</li> <li>・もっと多くの保護者に参画してもらうよう呼びかける。</li> </ul>  | A B C D<br>4 1 0 0 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・その道の達人を呼び、指導することはとても大切だと思います。</li> <li>・年間50回以上(昨年30回)のゲストティーチャーを招聘しているとのこと、子供たちにとっては、興味を持ち、意欲的に取り組めたと思う。</li> <li>・机上で板書する授業だけでなく見て触れて感じるといった授業が増え、感性を養うには良い授業と思う。続けていって欲しい。</li> </ul>   | <p>コロナ禍が終わり、ゲストティーチャーによる活動を年間約50回程度行うことができた。来年度も年間方法を工夫しながらも6年間を通じて様々な機会を身えられるよう計画を立て、実施する。音楽や芸術、青梅学など、計画的にゲストティーチャーによる授業を積極的に実施していく。</p>   |
|       |                            |                                | ⑤ 「わかくさミュージックイヤー2023」と位置付け、音楽に親しむ機会や環境をつくり、関心・意欲を高めるための活動を推進する | 60% | 36% | 4% | 0%  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○学芸から提案された取り組みは活かされた。</li> <li>○全学年の授業を見に行き、声かけやホワイトボードなどで自信や意欲をもたせた。</li> <li>○「歌はともだち」の本を活用して歌を歌う時間を多く設定した。</li> <li>○音楽的なゲストティーチャーの学びがよい。</li> <li>○音楽会や鑑賞教室などだけでなく、学年や委員会などを通じて関心・意欲が高まった。</li> <li>○音楽集会をはじめ、学級内での音楽交流などの活動を行った。</li> <li>○ゲストティーチャー、今月の歌、音楽集会など音楽に触れ、楽しむ活動が行われていた。</li> <li>○外部の方を招いての講演はとても良く、子供たちの心にも残ったはず。</li> <li>●多く取り組もうとすると時数が厳しい。</li> <li>●一流のミュージシャンと体験や交流の場が少なかった。</li> <li>●意識はできたが、活動後の児童の変容が見えない部分もある。</li> <li>●音楽会以外での取組はなかなかすることができなかった。</li> </ul>                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会やクラスの中などで積極的に音楽を取り入れていく。</li> <li>・行った結果、子供のどのような変容が見られたのかまで分析する。</li> </ul>  | A B C D<br>6 0 0 0 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽はいつまでも心に残ります。今後も積極的に取り入れて欲しいと思います。</li> <li>・音楽会を参観させていただいたが、どの子ども本気で取り組んでいた。</li> <li>・音楽会の参観では、学校・生徒・家庭と結びつけられる大切な教育課程と、感心させられました。子供たちが社会に出たら、自己主張だけでなく、社会に同調しながら自己主張して行くことが大切なことを、体験させていると思います。</li> </ul>                                      | <p>豊かな学びの場」として、来年度は、「わかくさアートイヤー2024」とし、芸術に対して日常的に関われたり触れたりする機会を積極的に設定していく。特に、地域や保護者などとも連携し、活動を更に発展・充実させていく。</p>   |
|       | 個性ある子どもたちが共に安心して学ぶことのできる学校 | 自尊感情・自己肯定感の向上と特別支援教育のスタンダード化   | ⑥ 自尊感情・自己肯定感を高めるために、自分の判断や行動に自信をもたせたり、自分のよさを感じたりできる教育活動の工夫をする  | 56% | 36% | 4% | 4%  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○どのようなことが良いかを具体的に言葉で伝えてあげるようにした。</li> <li>○存在することの相互理解を深めさせたい。</li> <li>○児童の意見や活動を具体的にほめるようにした。</li> <li>○研究の中で教師側の働きかけについて学ぶことができた。</li> <li>○自己評価に課題があったが、アンケートの結果改善が見られた児童が一定数いた。</li> <li>○日々ポジティブな言葉をかけるよう心がけた。</li> <li>○授業中の発表や自分から話しかけてきた時は丁寧に答えて関わりをもった。</li> <li>●意識しているものの児童の達成度がもう少し。</li> <li>●研究として取り組んだが、成果としてどうだったか疑問。</li> <li>●ほめる言葉がけをたくさんしたり、一緒に活動して安心させたりしたが、アンケート結果はあまり変わらなかった。</li> <li>●工夫はできたが、自己肯定感を高めることにつながっていないものもある。</li> <li>●自己肯定感を育むために、意識的に教育活動を工夫することはあまりできていたと言えない。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・特支の児童の特性もあり、すぐに自己肯定感が上がるのは難しい。長い目でみていく。</li> <li>・成果と課題を考察していく必要がある。</li> <li>・違う方法を考え、試してみる。</li> <li>・値が伸びない児童もいる。対象児童以外にも向上できるよう、工夫を続けていく。</li> <li>・来年度以降も自己肯定感を育むための研究を行っていく必要がある。</li> <li>・会話の中で言葉の良さや対応を認めつつ、肯定感もてるように話した。</li> <li>・一つ一つの行動(活動)に対して、認める声かけを行う。</li> </ul> | A B C D<br>2 3 0 0 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・継続して取り組んで欲しいです。よろしく願い致します。</li> <li>・アンケートも昨年より、良くなっているとのこと、すばらしいことだと思います。</li> <li>・一日一回は褒められたり、認められたり、全員の子が味わうことができないか、特に叱られることが多い子、自立できない子、理解するのに時間がかかる子には、自分に自信を持たせる授業はとても難しいと思います。大事なことなんですけど…。</li> </ul>                                      | <p>校内研究で得られた知見を、日々の学校生活のあらゆる場面で活用していく。「できる」「分かる」「認められる」ことが自己肯定感や自尊感情の向上には欠かせないものである。「できる」「分かる」授業の実践と特別活動などの時間に互いを認め合う場面の設定などを行っていく。</p>   |
| 豊かな心  |                            |                                | ⑦ 障害のあるなし、得意不得意にかかわらず誰もが安心して学べる学習環境をつくる。(特別支援教育への理解)           | 60% | 40% | 0% | 0%  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○視覚支援や教室前の刺激物を減らすなどの工夫がされている。</li> <li>○特別支援委員会より特支視点の持ち方について研修を実施した。</li> <li>○生活支援シート対象児童を中心に負担を減らせるよう、支援カードを渡すなどしている。</li> <li>●教科によってはできていないものもある。</li> <li>●本校や青梅市内の特別支援教育を把握することに努めた。一方で情報共有が不足した。</li> <li>●教室環境の共通理解が不足している。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育について理解を深めるために空き時間にわかくさ学級へ見学に行く。</li> <li>・気になる児童について担任やコーディネーターと日頃から情報共有をしていく。</li> <li>・全ての教育活動で配慮を行う。</li> </ul>   | A B C D<br>3 2 0 0 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・理解を深めるために空き時間に…「空き時間」という所がひっかかりました。わかくさ学級との理解は重要だと思いますので、よろしく願い致します。</li> <li>・当校にはわかくさ学級があるので情報共有してご指導をお願い致します。</li> <li>・人権を尊重して差別のない、安心して学べる学校、クラスに是非お願いしたい。</li> <li>・優しい気持ちの子供たちが多く感じている。</li> <li>・欠席日数の多い子、もう少し減らせないか。(子供の数、日数ともに)</li> </ul> | <p>意図的、計画的に障害理解教育を実施しているが、今後もこの取組を続けていく。通常学級とわかくさ学級との交流及び共同学習の実施について、6年間を通して発達段階に応じた交流学習をするために、学校全体の交流及び共同学習の全体計画作成し、活動を工夫して、実施をしていく。また、通常級、特別支援固定級にかかわらず、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた授業づくりを目指し、障害のあるなしにかかわらず、「分かりやすい」授業を目指す。</p> |

|        |                 |                                |  |     |     |     |    |  |  |                    |   |  |
|--------|-----------------|--------------------------------|--|-----|-----|-----|----|--|--|--------------------|---|--|
| 地域     | 地域の教育力を生かす学校    | 家庭学習習慣の定着を図り、自学できる力を高める(小中の連携) | ⑧小・中学校で共通して家庭学習強化期間の機会を設定し、家庭学習を計画的に行う習慣が身に付くように啓発する。(小中一貫教育の視点)           | 38% | 42% | 16% | 4% | <ul style="list-style-type: none"> <li>○一定量の宿題の習慣化ができたので、その量に見合う計画を立てさせられた。</li> <li>○家庭学習の推進の週間の設定ができています。</li> <li>○家庭学習週間などを通じ、啓発は進められた。</li> <li>○計画的に学習を行うように日頃から指導を行っている。</li> <li>○家庭学習ががんばろう週間が定期的に行われているため、習慣が身に付いている。</li> <li>○学期1回の週間に全校へ声をかけた。</li> <li>●学校では意識しているが、各家庭の事情が多い。</li> <li>●共通理解に乏しい。</li> <li>●中学校との連携を意識して取り組んでいない。</li> <li>●内容や求める力について明確化されていない。</li> <li>●カードの記入など促しているが、なかなか定着に結びつかない。</li> <li>○強化期間に合わせて自主学習期間を設定した。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・一年間に何度もやらず、一点集中で年1回の開催にして家庭の負担を減らす。</li> <li>・地域、学校、保護者の一体化、組織化を図る。</li> <li>・中学校との情報共有を深めていく。</li> <li>・定着できていないため、さらに指導が必要。</li> <li>・保護者への呼びかけ、本人への呼びかけ。</li> <li>・児童の必要感を考えて活動するべき。</li> <li>・小中一貫でなくても小学校独自で家庭学習強化期間を設定してもいいかも。</li> </ul>  | A B C D<br>1 5 0 0 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭での学習強化はなかなか難しいと思います。継続的な指導も必要だと思います。</li> <li>・家庭で・・・</li> <li>・家庭学習は、学校で習ったことを、家庭に帰っても、より多い量こなすことで身に付けることなのか、学生にも差はあると思いますが、家庭で自習することは、学校で完全に覚えこまないで、家庭にアドバイスしてくれる人は別ですが、自習は手に付かない方もおられるのではないかと考えます。従って授業では、市販されている商品の扱いマニュアルのような、指導がなされないといけないかと考えます。</li> <li>・計画的な家庭学習は、保護者の理解や協力も必要となる。保護者への理解や協力をどのようにしているのか。</li> <li>・小中連携で取り組むとのこと、他のことでも連携して、効果が上がる内容もあるのではないかと、小学校独自に家庭学習の習慣を身に付ける努力も必要ではないか。</li> </ul> | 家庭学習の大切さや取り組み方について、児童の理解を高めることに加え、保護者会の機会には、保護者と家庭学習をテーマに話す機会をもつようにする。また、小中連携による家庭学習の習慣付けに家庭学習強化週間を設ける。さらに各校での取り組みを見える化させることで、他校の良い実践を本校でも取り入れていく。また、本校児童が中学校に進学する際には、学習や生活面の様子はもちろん、登校などの状況などもしっかりと引き継ぎを行っていき、中学校生活が安心してスタートを切れるように配慮していく。                |
| 教育環境整備 | 備えられた環境づくり      |                                | ⑩ユニバーサルデザインを意識した統一した教室環境を行い、学びの場としてふさわしい整った環境をつくる。                         | 68% | 24% | 8%  | 0% | <ul style="list-style-type: none"> <li>○図工の絵の具でのパケツや粘土などの作品の置き場所を苦慮しつつ使っている。</li> <li>○余計なものを置かず、必要なものを配置するようにした。</li> <li>○刺激を減らしている(教室環境)</li> <li>○誰もが安らげるような保健室に整えている。</li> <li>○見てわかりやすい掲示を心がけて行なった。</li> <li>○児童の意見も取り入れながらユニバーサルデザインを意識している。</li> <li>○刺激物を減らす工夫、掲示がなされている。</li> <li>○教室環境を整えることで落ち着いた環境で学習を行なうことができた。</li> <li>○前面は電子黒板の配置を基本に設置し、他を使いやすくするようにしてきた。</li> <li>●教室はきれいに使っているが、ユニバーサルデザインは意識できていない。</li> <li>●学習や年齢にふさわしい色彩や配置を考慮した環境に心かける。</li> <li>●すこしずつ統一感が見られない教室があった。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初の確認と定期的な確認を行う。</li> <li>・学年間で揃えるべきところについて話し合うとよい。</li> <li>・さまざまな児童のことを考え、ユニバーサルデザインを意識していく。</li> </ul>  | A B C D<br>4 1 0 0 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室内の環境は整っていると感じています。</li> <li>・教室の前面は整頓され、すっきりしている教室が多い。</li> <li>・Labo教室廊下側、保健室廊下、図書室廊下、昇降口入口等の掲示が特に工夫されている。</li> <li>・学級の目標が掲示されている教室もある。ないクラスもある。学校教育目標、担任の願い、子どもの思いが学級の目標としてあって良いと思うが。</li> </ul>   | 誰にとっても快適な空間になるよう以下のような取組を継続して行っていく。学習に集中して取り組めるよう教室前面は全校で掲示物を統一する。児童が安全に生活できるよう月に1回は全教員で施設の安全確認を行い、必要があればすぐに修繕する。掲示物について、破れていないか確認するなど、掲示物の環境に注意を払い、子供たちの興味・関心を高められるように工夫していく。また昇降口や階段など、こみが溜まりやすい箇所があり、掃除担当だけでなく、学校全体の環境をよい状況に保つことについて、今後も教職員全体の意識を高めていく。 |
| 教育環境整備 | 児童・保護者の立場に立った対応 |                                | ⑩受容的な態度で丁寧に児童と接し、安全への配慮や安心して相談ができるようにする。また、保護者との情報共有を行い、信頼関係をつくる。          | 84% | 16% | 0%  | 0% | <ul style="list-style-type: none"> <li>○聞く、見守るという姿勢が児童に伝わるようにしてきた。</li> <li>○保護者へは丁寧な口調でわかりやすい情報共有を行った。</li> <li>○小さなことでも早めにどんな方法でもいいので連絡して欲しいことを保護者に呼びかけ、実践できた。</li> <li>○密にコミュニケーションがとれている。</li> <li>○子供への対応や親への連絡に教師全体が意識的に取り組んでいる。</li> <li>○情報共有や児童との関りについては日頃から意識している。</li> <li>○常に児童、保護者に対して受容的な態度で接している。</li> <li>○若草小は児童に寄りそい保護者と密に連絡をとっている。</li> <li>○子供たちの話を親身に聞いたり、保護者としてしっかり情報共有することで連携を深めることができた。</li> <li>●上の学年とのトラブルが数回発生している。保護者への連絡をとること。</li> <li>●学校では意識しているが、各家庭の事情が多い。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・特支教育に偏見をもつ家庭もあるため学校から情報発信していく。</li> <li>・安全への配慮についてさらに指導が必要。</li> <li>・保護者理解のための継続が大切。</li> <li>・学年をこえて相手との事実関係を確かめ、互いの行動の取り方を考えさせる。</li> </ul>  | A B C D<br>5 0 0 0 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童と先生はコミュニケーションがとれていると感じます。</li> <li>・子供と担任、保護者と担任。望ましい関係ができていないか。</li> <li>・先生方は子供、保護者の話をよく聞き、適切に対応していると思う。</li> </ul>   | 教員が一人一人の児童の話を受容的に聞くことができるよう研修などを通して、カウンセリングマインドを意識したこと、子供や保護者との信頼関係を築くことができた。養護教諭やスクールカウンセラー、専科教員と学級担任との連携を深め、児童の心の問題に対して、組織的に対応できるようにする。保護者と情報を密にして学校と家庭が協力して児童を育てるという雰囲気をもっと高めていく。   |
| 生活指導   | 社会性の向上          |                                | ⑪児童が集団生活のルール、マナー(挨拶、時間を守る)廊下歩行など)社会性が身に付くように指導をする                          | 72% | 24% | 0%  | 4% | <ul style="list-style-type: none"> <li>○多くの児童はよいが、一部の児童に指導が必要。</li> <li>○会った時の挨拶、入室や退室時の挨拶、廊下歩行についてその都度、指導をしている。</li> <li>○挨拶、廊下歩行についてはもっと意識を高めたい。</li> <li>○日頃からマナーやルールについて指導を行っている。</li> <li>○廊下の歩き方などを徹底的に指導することでだんだんとできるようになった。</li> <li>●学校では意識しているが、各家庭の事情が多い。</li> <li>●集団生活を意識させた取り組みが欲しい。</li> <li>●指導したことが定着しづらいことがある。</li> <li>●挨拶や廊下歩行は指導しているが、定着していない。</li> <li>●ルールやマナーなどの指導は行っているが、児童に身に付いていない子も見られる。</li> <li>●基本的に集団生活のルール、マナーを守れている。一方で周りの雰囲気にもまると守れないことがある。</li> <li>●声かけはするが、最後まで見届けていないことがあった。</li> <li>●休み時間の広場の移動等に課題あり。</li> <li>●忘れ物が多い。</li> <li>●継続的な指導とその場での指導とを併用したが、廊下歩行には課題が残った。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員も一緒に元気な挨拶を心がけ、行事なども児童と一緒に盛り上がることで社会性も身に付くのではないかと。</li> <li>・一人一人に応じた対応。</li> <li>・引き続き、根気よく指導していく必要がある。</li> <li>・持ち物等、基本的な生活のルールとマナーを指導。</li> <li>・全校で頑張りカード等に取り組む。</li> <li>・定着できていない部分もある。</li> <li>・適宜指導を行って、指導の徹底を図る。</li> <li>・今後も継続して指導を行っていく必要がある。</li> <li>・遅刻を減らす(なくす)ことが1日のスタートのためにも必要。</li> <li>・身に付く方法をもっと考える。</li> </ul> | A B C D<br>3 3 0 0 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒園生で一時期学校に行きづらくなった子がいました。しかし、担任の先生が適度に味方になってくれたとの事で今は本人も成長できたと感じています。ありがとうございます。</li> <li>・ルール、マナーは身に付いている児童が多いのではないかと。</li> <li>・指導には保護者の理解や協力も必要である。</li> <li>・社会に出る一歩として他人に迷惑をかけないこれが大切だと思います。集団生活にも必要です。引き続き指導をお願いします。</li> <li>・当方が学校訪問した際ですが、廊下で挨拶されてこちらがとまどったことを思い出します。全体だとは思いますが、浸透していると思います。</li> </ul>  | 来年度も年間を通して、挨拶や廊下歩行、時間を守ることについて、教員が同じ指導で妥協せず、繰り返し指導する。その際、行動の意味についても考えさせることで、自ら気付く児童の育成を心掛けていく。児童に学校のきまりが定着するよう、全教員で同じ指導を徹底して行ってきた。今後も継続して取り組んでいく。  |
| その他の視点 | 健康な体づくり         |                                | ⑫体育、なわとび・マラソン旬間、ポッチャ(オリパラレガシー)の機会を活用し、子供たちが楽しく運動し、健康な生活を送ろうとする態度を育てる取組を行う。 | 56% | 40% | 4%  | 0% | <ul style="list-style-type: none"> <li>○機会に応じて運動する習慣を身に付けさせてきた。</li> <li>○体育週間の取り組みは児童が一生涯懸命取り組んでいる。</li> <li>○取り組みは行っている。</li> <li>○カード等を活用して積極的に取り組んでいる子を価値付けている。</li> <li>○定期的に運動する週間が行われている。</li> <li>●意識しているが、児童の達成度がもう少し。</li> <li>●本校の健康課題を全体へ共有した。しかし、課題のある児童の共有ができなかった。</li> <li>●体育行事への子供たちの関心は高いが、体力の向上にはつながっていないと思う。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員も一緒に外で遊ぶ。</li> <li>・運動が特に必要な児童については担任にも情報共有していく。</li> <li>・決定的な策は残念ながら見つからない。引き続き、根気強く指導していくしかない。</li> <li>・日常の体育授業の内容について体育委員会から提案。</li> <li>・一時的な取り組みではなく、中長期的な取り組みを実施する。</li> <li>・全体にまで波及していないので、他者比較でなく、去年の自分と比較してどう成長したか振り返らせたい。</li> <li>・日常の体育の時に体育旬間を意識して授業を進める。</li> </ul>   | A B C D<br>3 2 0 0 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的に体を動かすことは好きと思いますが、そうではない子供たちも運動できるよう、指導をお願いします。</li> <li>・なわとび、マラソンと計画的な取り組みができたのではないかと。</li> <li>・休み時間に外で元気に遊んでいる子供が多い。教室に居る子もいるが。</li> </ul>   | コロナ禍を経て、子供たちの体力が落ちている。喫緊の課題として、児童の体力向上の意識を高めていく。マラソン旬間や縄跳び旬間の取組は、子供たちの健康体力向上の意識を高める上で、大変有効であるとする。今後も計画的にしっかりと取り組んでいく。  |

|                        |                                |  |            |            |           |           |   |   |                            |   |  |
|------------------------|--------------------------------|--|------------|------------|-----------|-----------|---|---|----------------------------|---|--|
| <p>資質向上<br/>人材育成</p>   | <p>教員の指導<br/>力向上</p>           | <p>⑬分かる、楽しい授業づくりのために主体的に研修をし、発信する。<br/>(校内研究授業、カフェテリア研修、外部研修会への参加など)</p> | <p>58%</p> | <p>34%</p> | <p>0%</p> | <p>8%</p> | <p>○校内で授業を行い、研究・協議をした。<br/>○カフェ研にほとんどの人が参加している。<br/>○カフェ研を通して自分たちの力を広く教員に広める場が作れている。<br/>○指導力向上のための校内研、カフェ研などが行われている。<br/>●自分からなかなか発信することは難しかった。<br/>●カフェテリア研修を行った。児童の実態に応じていたか疑問。<br/>●研修に参加はしているが発信できていない。<br/>●校内研、カフェテリア研は受けているが、外部に参加できていない。</p>                       | <p>・自分の学級事務の状況を伝える場を設けてもらい発表する。<br/>・自分で学んだことをすずんでTe@マークcompassなどを使って発信していく。<br/>・発信を意識する。<br/>・授業公開をして実践的な活用方法について発信する。<br/>・外部研修に積極的に参加して、「わかる・楽しい授業」をめざしていく。</p>     | <p>A B C D<br/>4 1 0 0</p> | <p>・各種研修を積極的にを行い、常に自己研鑽に努めていただきたい。<br/>・カフェ研が大きな成果を上げていること。発想がユニークです。<br/>・主体的に研修に取り組んでいると思いますが、外からはよくわかりません。</p> | <p>校内研究を中心に、全教員が授業に関わってきた。指導内容を検討し、授業を作り上げる経験は、一人一人の教員の授業力向上に役立った。<br/>カフェテリア研修など、無理なく、短時間でできる研修の機会の拡充を図っていく、教員自身の指導力向上と自己有用感を高めていく。</p>                           |
| <p>ライフ・ワーク・バランスの推進</p> | <p>校務の見直しと職務の効率的な取り組みを進める。</p> | <p>⑭週あたり在校時間50時間以内とし、効率的に仕事を行う。(時間外勤務時間45時間/月)</p>                       | <p>72%</p> | <p>24%</p> | <p>4%</p> | <p>0%</p> | <p>○意識的に仕事に集中し、効率化を図る。<br/>○効率的に仕事を進めるために計画を立てて取り組んでいる。一度だけ60時間を超えた。<br/>○時間の意識が高くなっていく。<br/>○時短への意識が組織としても個人としても高まり、時間外勤務が減っていると考えられる。<br/>○効率を考えて仕事に取り組んだため。<br/>○週に1日、定時退勤日を設けた。<br/>○業務を効率的に行うことができた。<br/>●残業が多すぎた。<br/>●会議等が多いので拘束時間が長い。<br/>●個人差があるが残業で残っている人がいる。</p> | <p>・会議の時間を減らし、その分、相談や子供に指導する時間にあてる。<br/>・できるだけ前倒しでできるように計画を立てていく。<br/>・残業せず効率よく仕事を行う意識を一人一人もつことが必要。<br/>・仕事をもっと見直しをもって取り組む。<br/>・実務を消化するために集中して事に当たり、時間内に済むように心掛ける。</p> | <p>A B C D<br/>5 0 0 0</p> | <p>・どの会社でもそうだと思いますが、会議を減らすか、時間短縮に努めたいと思います。<br/>・工夫により、成果を達成しているとのこと。さらなる、効率化を。</p>                               | <p>定時退勤日の設定や教職員から意見を吸い上げ、ボトムアップで校務改善に取り組んできた。その結果、勤務時間を意識して仕事に取り組む教員や見直しをもつて計画的に業務を行う教員の変が多くなり、月当たりの残業時間は、平均で28時間程度に抑えられている。今後もより効率的かつ効果的な働き方ができるよう校務改善に努めていく。</p> |